

講義名	対1)19-企業会計入門/15-会計学入門			授業形態	
担当教員	米栖 正利/島田 奈美/孫 美実/ 早川 翔		開講期・曜日・時限	前期 月曜日 2時限	
	単位数	2	履修開始年次	1年生	ナンバリング

主題と概要

本講義は、これから会計学を学ぶ学生はもろんのこと、それ以外の分野に関心のある学生も対象に、会計分野の中でも専門が異なる複数の教員が会計に関するトピックスを紹介、解説を行う科目です。各講義では、新聞記事などの具体的な事例とそれを理解するための会計学の基本的な理論を組み合わせることで、会計が社会に与える影響や役割を実感するとともに、会計学に対する関心を高めることを目的としています。

到達目標

会計学とはどのような学問で、その中でどのような分野が存在するかを理解する。
 会計が社会でどのような役割を担っているのかを理解する。

提出課題

各担当教員の指示に従って下さい。なお、動画講義を履修する学生に対する課題作成と提出を、ある特定日時に集中限定して行う場合も計画しています。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

教員により課題を出すタイミング、フィードバックの方法が異なりますので、各担当教員の初回の講義にはなるべく出席し、指示に従ってください。

評価の基準

評価の方法は各担当教員により異なりますが、課題提出または小テストが課せられます。それぞれの実施方法等は各担当教員が講義時間中または掲示資料等によって告知します。なお、対面講義または動画講義、いずれの履修方法を選択しても、最終評価方法は同じです。

履修にあたっての注意・助言他

- ・欠席時は、欠席した回の担当教員に直接連絡してください。異なる教員に選んだ場合には無効になる可能性があります。
- ・同じ曜日に複数クラスが開講されます。クラスを間違えて出席した場合には、その日に課されたテスト及び課題が評価されない可能性があります。間違えないように注意してください。
- ・なお、対面講義を履修する学生が不可抗力により動画講義の履修に変更することになった場合の履修方法等については状況に応じて個別に対応します。
- ・動画講義を履修した学生への動画配信は、対面講義の終了後少なくとも2時間程度遅れてからになります。加えて、その都度の動画の配信時間等を一定期間設ける予定しています。

教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

その他

講義時間中に配布するか、またはPortalに一定期間掲示します。

授業計画

1. 本講義の位置づけ
2. 会計コース開講科目との関連
3. 会計学とは
4. 会計の役割
5. 会計の基礎的前提
6. 会計基準とその国際化
7. 貸借対照表と損益計算書
8. 貸借対照表と損益計算書
9. その他の財務諸表
10. まとめ（第1回-第4回）
11. 管理会計と原価計算
12. 管理会計と業績評価制度
13. O/P分析
14. 単純総合原価計算
15. 全体のまとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各担当教員の指示に従い予習・復習を行ってください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

* 簿記・会計の学問的知識を身につけ、企業の財政状態、経営成績、キャッシュフロー等に関する情報を作成、分析することができる。ただし、これらの具体的な事項というよりはこれらの意味や考え方を主軸とした企業の経営活動を会計学という学問がどのように考えているのかといった観点を知ることができます。
 * 企業の社会的役割を理解したうえで、得た専門知識をもとに企業が直面する問題や企業の強みを発見し、経営戦略の構築に貢献することができます。これらの「事項を会計は数値の増減に注目して理解しよう」としますので、その増減からどのように思考を膨らげればいいのかという問いに対する「解答」を得るために何を考える必要なのかという考えるかというきっかけに気づく可能性を高めることができます。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

基本事項を講義することが主目的のため、双方向講義という運営をとりません。もちろん、派生する項目や質問に対して補足説明を行う時間を設け履修者の理解を助けます。

実務経験の有無及び活用

備考

複数クラスを開講しますので、シラバスの順番が前後する可能性があります。ご了承ください。